

2024 学校評価

「自己評価」

(2025/3/27)

サミットアカデミーセカンダリースクール長野

I 目指す学校像

教育理念「自由と愛」のもと、児童・生徒一人ひとりが、それぞれの個性が尊重され楽しく充実した学校生活を送ることを通して、日本人としての資質とグローバルに活躍できるマインドとスキルを兼ね備え、世界の舞台で自分らしく地球に貢献できる人材となることができる教育環境の整備を積極的に推進する。

II 重点目標

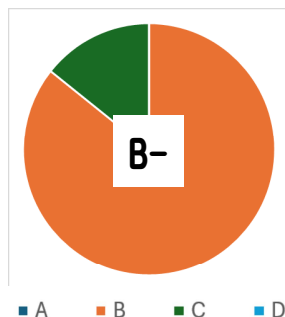
1. 児童・生徒が主体的に学ぶことができる魅力ある授業を提供できるよう教科指導法の研鑽に努める。
2. 英語 4 技能（聞く、話す、読む、書く）を習得することができる環境と方策を用意し実践する。
3. 児童・生徒一人ひとりがお互いの個性を認め合い、尊重し合い、高め合える学級や学年をつくる。
4. 児童・生徒が心身ともに健康で明るい学校生活を送れるよう、一人ひとりの人権を尊重し、安心・安全な学校づくりを進める。
5. 教育活動等の情報を、児童・生徒の保護者、地域に対し幅広く発信し、地域社会に貢献できる学校づくりを推進する。

III 自己評価

- A : 9 割以上の達成状況である。かなり高いレベルでできている。
- B : 6 割以上 9 割未満の達成状況である。概ね基準に達している。
- C : 2 割以上 6 割未満の達成状況である。基準には達していない。
- D : 2 割未満の達成状況である。ほとんどできていない。

1. 学習指導や生活指導について

- ① 児童生徒の学ぶ意欲を引き出し、主体的に取り組む態度を育む授業を行うことができたか。



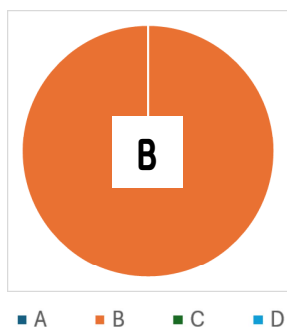
【具体的取組状況と成果】

growthmindset を軸に、新しいことへの挑戦を多くの生徒が行い、成果を実感できたものとする。道徳の授業研究を行うことを通して、生徒の学びを軸に授業を行う態度を養うことを取り組むことができた。各教科では、数学で少し難易度の高い教材を使用することで生徒のやる気を持たせたり、音楽創作の単元でCMサウンドづくりやオリジナルラップ制作をして興味関心を持たせたりする工夫をすることができた。また、英語の授業で学んだことを授業外の場面でも活用しようとする生徒が増えてきた。

【課題と改善策】

各教科において、問題解決型の学習や生徒主体の学びのある授業を十分に進展させることができなかった。新年度は、各教科の運営計画や研究計画を作成することをスタートとして、授業改善を行っていく必要がある。授業内容への興味・関心の持たせ方、理解度に応じた発問、授業と授業のつながりを作ることなど、生徒が主体的に学ぶための工夫がさらに必要である。

② 問題発見力、課題解決力、表現力、コミュニケーション能力を養う授業が展開できたか。



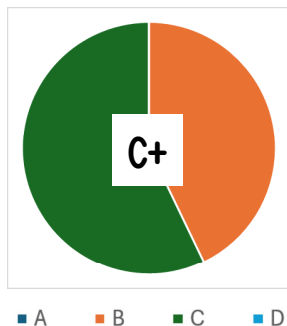
【具体的取組状況と成果】

総合的な学習に時間の「地域貢献」を通して、それぞれの課題に向き合い、多くの人とつながりながら、目的意識を持って課題解決に取り組む姿勢が見られるようになってきた。コミュニケーションをとる、全体に対して自分の考えやまとめたものを発表するという場を多く設定することにより、表現力やコミュニケーション能力の成長につながっている。

【課題と改善策】

各教科の授業では、教師主導で展開する場面が多く、授業改善の必要が多くある。生徒の姿からは、相手を意識した表現が十分にできていないことが課題としてあげられる。どのようにすれば、相手を意識しながら自分の思いを伝えられるのかについて、授業などを通じて取り上げ、実践していきたい。

③ 英語4技能の習得のために必要な、英語を聞き、話し、読み、書くことができる機会を十分に用意することができたか。



【具体的取組状況と成果】

聞く、読む、話すについては、日々、力をつけてきていると考えられる。インターナショナルティーチャーの話をスムーズに聞き取ることができている姿もあり、そのことを生徒が実感していることが分かる。英語の指示のみで次に何を行うか理解できるようになっており、英語を使うことに抵抗感が少なくなってきた。

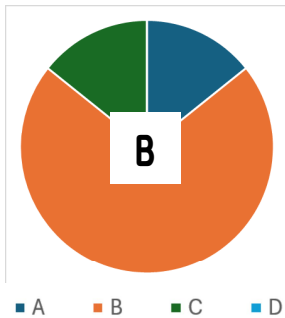
【課題と改善策】

生徒アンケートからも書く力については、現段階では不十分であると言える。今

年度はついに GTEC など行うことができなかった。様々な英語の力を高めるための機会の提供を確実に行っていきたい。また、英語の授業では生徒同士で話すときも英語を使用させる、インタナショナルティーチャーとの会話を促す、英語の本を読むよう促す、教員の英語力を向上させるなど、英語が使える環境作りをさらに進めていく。

2. 生徒指導について

④ 児童生徒がお互いを認め合い尊重し合える関係を築ける生活指導や学級経営を行うことができたか。



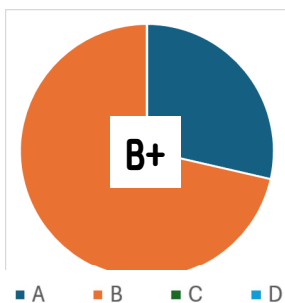
【具体的取組状況と成果】

仲間づくりに力を入れたことによって、多くの生徒がお互いの違いを認め合いながら、いつでもだれとでもすぐに話をできる関係が築かれ、毎日楽しく過ごすことができています。

【課題と改善策】

尊重し合い、高め合う人間関係であることが、目指す学習集団として重要であるが、そのような集団を目指すための学級経営の手だてが不十分であった。日々の対話を大切にし、生徒が安心して自己表現できる学級づくりを進めていく必要がある。

⑤ いじめ・暴力・SNSトラブルなどのない安心・安全な学校生活を送るための啓発活動を行い、情報収集を行うことができたか。



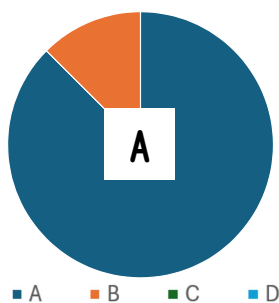
【具体的取組状況と成果】

学活の時間などで定期的に話題に取り上げるなど、いじめや暴力については、十分に指導が行き届いていると考えられる。SNS の内容などに関しても、教師との信頼関係が強いため、様々な情報を生徒と共有することができている。また、学期ごとに個別面談を行い、生徒の悩みや人間関係の状況を把握するよう努めている。

【課題と改善策】

大きな問題は発生していないものの、情報モラル教育のさらなる強化は常に求められる。今後も、生徒が安心して学校生活を送れるよう、継続的な見守りや啓発、情報収集、教員間の情報共有を行っていきたい。一方で、人間関係のあり方が粗雑になってきている面が男子中心に見られる。高め合える集団にするための手だてを明確にしていきたい。

⑥ 体罰や暴言と捉えられたり、児童生徒の人権を軽視したりするような言動を行わなかったか。



【具体的取組状況と成果】

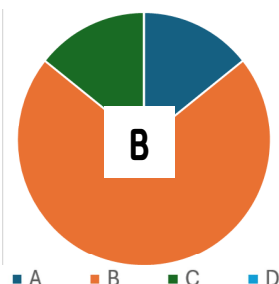
全教員が十分に意識できている。日々の指導において、生徒一人ひとりの気持ちに寄り添い、言葉の使い方にも十分注意を払った。特に、叱る場面では感情的にならず、行動の改善を促す形で指導することを心がけた。また、生徒一人ひとりに対して平等に、かつ対等な人間として接するよう心がけている。

【課題と改善策】

継続して現状を維持するとともに、生徒の人権が常に尊重されるよう、注意を払いたい。

3. 保護者連携・地域連携について

⑦ 保護者や外部からの声に対してきちんと対応・回答することができたか。



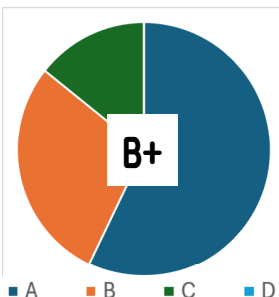
【具体的取組状況と成果】

概ね良いと考える。学校行事や学級での出来事について、学級通信や面談を通して情報発信を行い、保護者からの意見や相談にも対応するよう努めた。

【課題と改善策】

ペアレンツデーの内容を見直し、保護者と対話しながら子どものためにより良い教育を提供していける環境や関係を作っていきたい。また、個別の相談への対応が遅れたケースもあり、今後はよりスムーズな連携が取れるよう努めていきたい。

⑧ 児童生徒が地域を知り、地域とのつながりを深められる学習機会を用意することができたか。



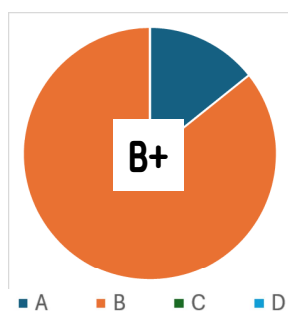
【具体的取組状況と成果】

総合的な学習の時間を通して、地域とのつながりを多く持つことができた。地域の課題を探り、解決策を考える活動を行い、文化祭では地元の商店街と協力し、地域の魅力を発信する取り組みを実施した。これらを通して、生徒たちは地域への関心を高めることができた。

【課題と改善策】

今後さらに、様々な企業や広い地域での活動を活発化し、地域で育ててもらえる学校となっていくよう、サミッターなどを積極的に活用していきたい。また、生徒が主体的に地域との関わりを持てるよう、生徒に対する情報発信やつながりの場を用意していきたい。

⑨ 学校や学年、学級等の情報を、保護者や地域に積極的に発信することができたか。



【具体的取組状況と成果】

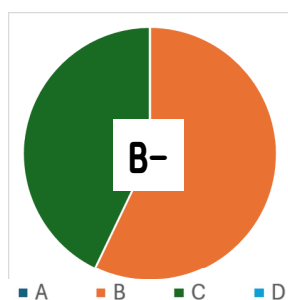
学校日よりと保健日よりは毎月、学級通信は週に1回発行している。学校ホームページで、行事などでの生徒の活動を発信しているほか、生徒も関わりながらInstagramによる発信も積極的に行っている。さらに外部の方に本校を知ってもらうためのニュースレターの発行も開始した。また、文化祭や懇談会などでは、保護者や地域の方にも参加していただき、学校の取り組みを直接見ていただく機会を設けた。

【課題と改善策】

地域の方々と学校がより良い関係を築けるよう、地域への発信はさらに積極的に方策を考えていきたい。また、普段の学校生活の様子が保護者に伝わり、生徒が自身を評価してもらえていると感じられるような情報発信も心がけていきたい。

4. 学校安全について

⑩ 災害時の対応、不審者や防犯対策、校内での事故の防止等、安全安心な学校づくりを推進しているか。



【具体的取組状況と成果】

緊急時対応マニュアルの作成、職員への周知を行った。事故防止の観点も含め、生徒の見守りを手厚くした。市内で起こった殺傷事件に際しては、職員間で協力しながら生徒の安全・安心な登下校を

【課題と改善策】

年度が進み、生徒数が増加すると事故の確率が上がるため、今から、廊下などの安全な利用などについて、周知・支援を行っていきたい。また、実践的な不審者対応訓練の実施のほか、緊急時における組織や個々の教員の対応については、しっかりと把握していきたい。